

漢字ゲームでさらに楽しく

ある程度漢字を覚えたら、一緒に漢字ゲームをして遊んでみるというでしょう。

ゲームの要素が入ることで、お子さんの漢字への興味はさらに深まりますし、家族みんなが参加すれば楽しさも倍増します。

ここで紹介しているのは、石井式漢字教育の実践園や教室で子どもたちが遊んでいる代表的なゲームですが、ルールや遊び方はお子さんの年齢などに合わせて変えていただいて差し支えありませんし、これらのゲームをヒントに、家庭でお子さんと新しいゲームを考えてみるのも楽しいと思います。

かるたやトランプなどの遊び方を応用して

【かるた遊び】 これまでお子さんが覚えた漢字カードをテーブルや床の上に広げ、ふつうのかるたと同じように読み手が読んだカードを取っていきます。慣れてきたら、お子さんに読み手をやってもらい、お父さんやお母さんがカードを取り合う、というのもいいでしょう。

【神経衰弱】 お子さんが知っている漢字のカードを二枚ずつ作っておき、トランプの神経衰弱の要領で、同じカードを探していきます。使うカードの枚数で難易度が調節できます。また、やや上級向けのバリエーションとして「遠い」「近い」「高い」「低い」「大きい」「小さい」などの反対語、対義語となるカードを一組ずつ作っておき、「近い」のカードを開けたら「遠い」のカードを探す、というように遊ぶ「反対語神経衰弱」などもできます。

【カード抜き】 ペアになっている漢字カードの中から一枚だけカードを抜いておき、トランプのババ抜きの要領で遊びます。

【ビンゴゲーム】 先攻、後攻がお互い二枚ずつ同じ漢字を書いたカードを持ち、それぞれ好きな場所に縦横三枚ずつ、計九枚のカードを並べます。先攻から順番に一枚ずつ裏返すカードを言い合い、先に縦、横、斜めのいずれかのラインが三枚裏になったほうが勝ちです。

魚、野菜などグループ分けした漢字で遊ぶ

【魚釣りゲーム】「鮭」「鯛」「鯖」「秋刀魚」「鰻」など、お子さんの知っている魚の名前を魚の形に切った紙に漢字で書き、クリップをつけたものを割り箸と輪ゴムで作った釣り竿で釣っていきます。

【お店屋さんゲーム】 お子さんが知っている魚、野菜、果物などの名前を漢字で書いたカードをテーブルや床に表向きに並べ、たとえば「八百屋さん」といったら、順番に八百屋で売っているもののカードを一枚ずつ取っていきます。

【パズル】 野菜なら野菜とテーマを決めて、「大根」「人参」「茄子」など、お子さんの知っている漢字をカードにし、それを鋏であらかじめ二つに切り誰してバラバラにしたものを、ふたたび正しく組み合わせます。切り方は、117 頁に示した A 図のように切ると比較的やさしく、B 図のように切るとやや難しくなります、「今日のカレーライスに入っていた材料」というようなテーマの選び方でも楽しいです。

不用になった空き箱でこんな遊びも

【漢字の泉】 117 頁の中段の図にあるように、ティッシュペーパーの空き箱に、お子さんが知っている漢字を書いた小さなカードをたくさん入れておきます。それを手探りで一枚ずつカードを引き、正しく読めたらカードがもらえます。

【漢字分類ゲーム】 贈答用のプリン、ゼリー、水羊羹などの入っていた箱に、117 頁の下段にある図のように「動物」「野菜・果物」「乗り物」「体の名称」など分類用の蓋をつけます。「漢字の泉」と併用し、引いたカードを分類ごとに入れていくと片付けにもなります。また、併用しない場合は「漢字の泉」と同じ小さなカードをテーブルなどに広げ、分類を言う役とカードを入れる役に分かれて(交代でやってもよい)、分類を言う役が「動物」と言ったら、カードを入れる役は狸や虎など、動物のカードを正しい場所に入れていきます。

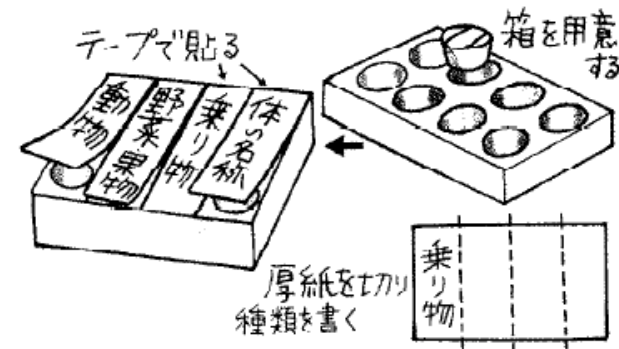
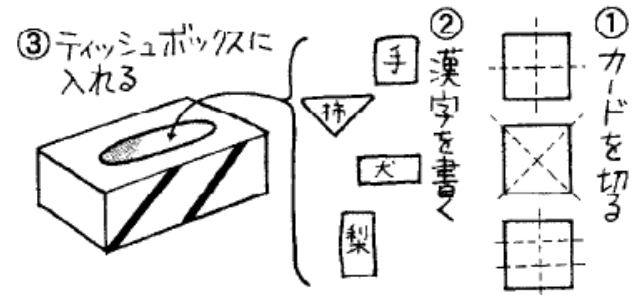
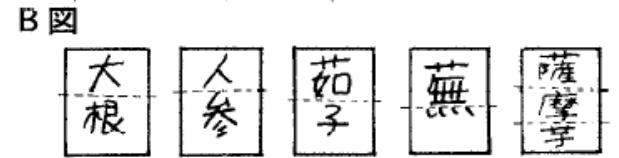
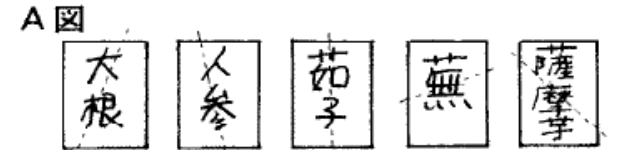
アイデア次第でこんな遊びも

【漢字探しゲーム】 新聞や雑誌の中から知っている漢字を探し、蛍光ペンで印をつけます、

【歌詞合わせ】 お子さんがよく知っている歌の歌詞を漢字かな交じり文で画用紙など、大きめの紙に書き、一行ごとに切り離してバラバラにしたものを正しく並べます。

【漢字尻取り】 三日月 月夜、空気 気球など、同じ漢字を含む言葉を書いたカード数組をテーブルの上などにバラバラに置きます。先攻がカードを一枚選んで読み、後攻は組になっているカードを見つけ、読めたら二枚とももらえます。一回ごとに先攻・後攻を交代します。

【文章作りゲーム】 名詞、動詞、形容詞、助詞などのカードを作っておき、組み合わせて文章を作っていきます。



漢字カードの上手な使い方